



の み が わ

2007年1月25日発行（通算第44号）
連絡先 〒146-0085 大田区久が原4-19-24
発行 大坪庄吾方 呑川の会
呑川の会 e-mail s.ootubo@nifty.com
呑川の会 HP <http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>
高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



第6回「エコフェスタ ワンダーランド」近づく —— 2/18 大森第一小学校にて ——

（大坪 庄吾 記）

呑川の会は【呑川の水質はいま】のテーマで展示をします。

日時 2月18日（日） 午前10時～午後4時
会場 大森第一小学校 展示は 3階3年1組教室

会場への道順 バス停「大森東中学校」下車3分 蒲田、大森よりバスが出ています。
京急線 大森町駅下車 7分 産業道路ぞいにあります。
自転車での学校への乗り入れはできません。 駐輪場は大森東中学校にあります。

（呑川の会の展示）

呑川の歴史から見た、呑川の水質の変化と現状、水質改善への見通しなど 現状を知っていただくための展示とします。
5月に行う「呑川シンポジウム」の宣伝も兼ねます。

準備と当日の参加について 次のことをお願いいたします。

（展示準備） 2月17日 午後1時半 大森第一小学校
3年1組教室に集合し展示作業をします。2時間ほどで終わる予定。

（当日について） 2月18日（日） 午前10時より 会場で展示しています。

午前10時～12時 午後12時～2時 片づけ午後2時～4時半 のいずれかに参加してください。
参観者へのPRなどしてください。他の会場の展示も見てください。
今回は3の2教室では 東京マイコープ南部環境委員会 環境保全(株)による呑川水質問題の展示があります。



呑川シンポジウムの開催へ

—悪臭、スカムのない呑川を目指して—

(福井 甫 記)

2007年5月19日(土) 予定

呑川の課題の一つである中・下流域の悪臭・スカム・白濁(以下悪臭等という)の問題について去年、東京マイコープ南部環境委員会から一緒に考えて行かないかとの呼びかけ以来、ほぼ毎月1回共同で勉強会を開催してきました。その過程の中でまだ呑川の悪臭等の実態・発生のメカニズム・その対策等について住民の理解も必ずしも充分ではないのではないかと。例えば去年の大軒恵美子さんのアンケート結果でも合流式のため大雨時、生活污水が呑川に流入することを知らない人が3分の2を超えています。そのようなことから呑川の悪臭等の原因・メカニズムについて正しい認識を持つと同時に 住民・行政・市民団体が共同でその改善の取り組みを広げたいという主旨で、骨子次の通り「呑川シンポジウム」を開催することになりました。



開催日時 5月19日 13時30分から16時予定

会場 区生活センター予定

次第

基調講演 日本工学院 学生課長(前環境科学科長) 猪口眞美さん

パネルディスカッション

パネリスト 悪臭等の現状

住民代表

呑川の歴史からみた呑川の水質

大坪庄吾さん

下水道局の対応(仮題)

下水道局から講師

大田区の対応(仮題)

大田区から講師

会場との質疑

具体的内容が決まり次第、詳細はご連絡しますが、呑川の会として他の市民団体と共同で活動するのは始めてであり、今後の活動の新たな広がりを期待したいと思います。

なおその話し合いの過程で「EM」についての情報を得ました。EMについてご存知の方も多いと思いますが、その内容は次の通りです。

EM (Effective Microorganismus の略)

琉球大学の比嘉照夫教授が開発された微生物活用技術で、自然界にいる微生物から有用な微生物を集め培養、2次処理したもので活用分野は環境、農業、畜産、家庭等々さまざまな分野に広がっているようです。実際 大阪では大阪市漁業協同組合がEMの培養液あるいは培養液を混ぜた団子をつくり、淀川に投入したところ壊滅状態であったシジミの魚場が復活、例年以上に水揚げされ、また道頓堀川では異臭もほぼ完全に消滅し、ヘドロの泥厚の最大50センチ弱減少しているとのこと。東京でも日本橋川、立会川で投入されています。たしかにEMに適した状況下では有効であり、私たちが積極的に情報を収集する必要はあるでしょう。

またそれとは別に大田区でもクシアウォーターという弱アルカリ性の硫酸銨還元菌を南行政センターが呑川に昨年7月に撒いている。

下水道の合流式による悪臭等の問題は呑川だけの問題でなく、合流式を採用している自治体では共通の課題であり、各自治体・市民団体等でさまざまな工夫をしているのではないか。そのような情報を極力収集し、呑川に利用できるものを見出していきたいと思う。

(福井 甫 記)

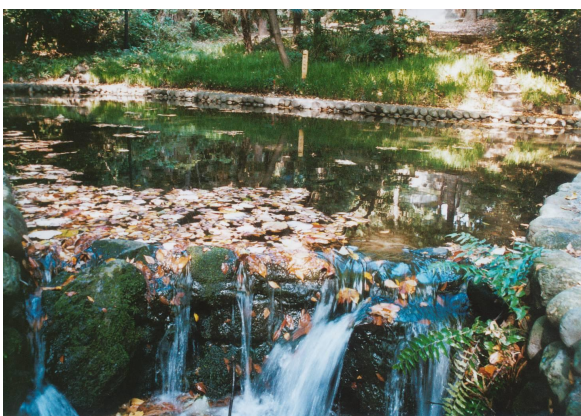
野川ハケの道 〈国分寺崖線沿いの湧水〉を歩く

(2006年11月26日)

(白石 琇 朗 記)

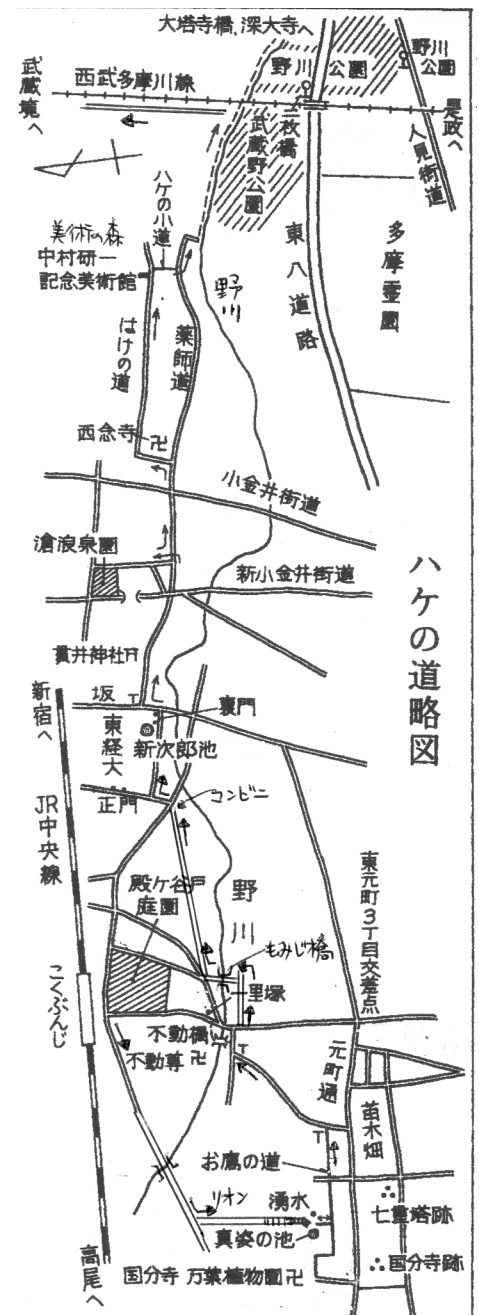
紅葉を期待して、11月26日(日)9時半に8名が国分寺駅に集合し、大坪代表の案内で小春日和の国分寺崖線沿いの湧水群を訪ねた。

先ずは南口駅前の「殿ヶ谷戸庭園」から歩き始め、段丘崖を生かした回遊式庭園は、湧水池・「次郎弁天の池」の上にある紅葉亭から見下ろしたモミジと池の光の反射がきれいでした。また駅前に戻り「多喜窪通り」を「泉町」で日立研究所の大池を源流とする細い野川本流を渡り、「武蔵国分寺公園」入口の角を曲がり、貴重な緑と湧水保護運動の訴訟でマンション建設の敷地を縮小和解した国分寺崖線の小さな階段を下り、緑豊かで湧水量の多い「真姿の池」で一息した。さすが名水百選の湧水で水を持ち帰る人が絶えない。水路脇の農家の柿は甘くおいしかった。湧水の「お鷹の道」を辿り、野川本流との合流点の不動橋から紅いモミジ並木の「もみじ橋」を渡り、ハケの道を歩き東経大裏門から構内に入り、第3の見学地「新次郎池」を訪れた。



池の周りの5~6箇所から豊富な湧水が流れ込み、野川に流れている姿に感銘した。

くらぼね坂道を横切り少し進むと、湧水が多く小金井(黄金井)の地名の起こりと言われる「貫井神社」があり、神社の裏の崖の



あちこちからコンコンと湧き「ひょうたん池」に流入していた。昭和53年迄はこの「温井（ヌクイ）」氷を利用して、神社の前に50mプールがあったそうだ。

続いて新小金井街道をくぐり、崖線の急坂を登ると「滄浪泉園」の風情のある長屋門に着く。殿ヶ谷戸庭園も滄浪泉園もマンション用地となる所を、地元住民の熱心な運動によって都と市が購入し管理しているので、よく整備されている。ハケの地形を巧みに生かした薄暗い静寂な、紅葉に映える木立の中の池を1周すると、2ヶ所から湧水があり、四阿の脇の水琴窟も印象的であった。



「どんぐりの森」横の平代坂を下り、ハケの道を西念寺・金蔵院、キウイ果樹園・シクラメン温室を過ぎると、最後の見学地「中村記念美術館の美術の森」だ。ここも崖線を保全した湧水と池・ビオトープがあり静かだ。ここの喫茶室に入ろうとしたが人が一杯で入れず残念。

この湧水の流れに沿って「はげの小径」を通り、近くの草土手の「野川」へ、そこは開けた「武蔵野自然公園」で、紅いもみじが綺麗でした。

「秋なのに、わきみずを集めて早し野川かな」

3時過ぎに公園から西武線・新小金井駅に向う途中で小雨が降り始めた。この雨も野川に吸い込まれるのだな、我が「呑川」にもこのような湧水が少し欲しいものだと思いながら電車に乗った。

呑川の樹木写真展・呑川一日講座 開催へ

(福井 甫 記)

—3/1~3/17 雪谷文化センター にて —



雪谷文化センターで呑川の樹木写真展と呑川一日講座を実施することになりました。樹木写真展は去年洗足池小学校のエコフェスタで展示したものと同じものですが、桜の写真も多く、時期としてはグッドタイミングであり、それを通じて呑川、さらに呑川の会に対する親しみ・関心が高まればと思います。

(呑川樹木写真展)	3月1日(木)から3月17日(土)まで 雪谷文化センター ホール
(呑川一日講座)	3月17日(土) 14時から16時予定 雪谷文化センター 第二集会室

呑川一日講座の内容は呑川の樹木・生きものを中心にしたものを考えていますが、現在検討中で、2月2日(金)の定例会で決定予定です。

昭和の初期まで呑川を流れる水は豊富な湧水によっており、呑川沿いに田んぼが広がっていたことは明治・大正期の地図をみれば明らかである。実際 私の子どものころ、東調布公園近くの「水神の森」の湧水は滔々と流れ出ており、水量が多かったからこそ「水神」と呼び、その名残が呑川の「水神橋」として残っている。

(水神の森 付近(南雪谷五丁目))



それが今 呑川に入る湧水は石川町・雪谷地区の護岸から染み出すものと洗足流れ、都営地下鉄の地下水ぐらいで、呑川の流量の1%にも達せず、ほとんど全て落合水再生センターの下水の再生水になってしまった。ところで落合再生センターで処理する下水は中野区等の住民の生活排水であり、中野区等の住民の利用する上水道には利根川の水が含まれているのだから結局 群馬県の山間部に降った水が呑川を流れていることになる。以前は川の流域のなかで行われていた水循環が流域を無視して行われている。その結果蛇口をひねれば水が飲め、長靴や高下駄は不用になった。

そのような現状に対する反省の動きが昨年後半に続いてみられた。一つは井の頭公園を管理する都西部公園緑地事務所や武蔵野市、三鷹市および両市のライオンズクラブ等から構成される「井の頭恩賜公園100年祭実行委員会」が主催し、神田川ネットワークが協賛する「シンポジウム よみがえれ! 井の頭池! —— 自然湧水の復活は可能だ ——」だ。

その中で小金井市の稲葉孝彦市長から雨水浸透ますの設置家屋が設置可能家屋の48.7%、11,484軒に達しているとの報告があった。ちなみに大田区の設置軒数は255軒(平成5年度から平成17年度まで累計)。

さらに小金井市では「小金井市の地下水及び湧水を保全する条例」を制定する(平成16年3月)など、行政と市民が一体となって取り組んでいる。小金井市の南部には国分寺崖線、野川が西から東に走り、それに沿い、貫井神社、滄浪泉園、中村研一美術館と3箇所の湧水が東京名湧水57選に選ばれており、市民が湧水の心地よさを共有していること、および小金井市の上水道の約70%は深井戸からの地下水であることなど地下水・湧水に対する市民の意識も高く、それが行政の姿勢とあいまってこのような高い雨水浸透施設の設置となったようだ。

もう一つの動きは世田谷区が主催し大田区と国分寺市、および3自治体での市民団体が参加(大田区からは「おおたく環境探検隊」)した「国分寺崖線フォーラム —— 次世代につなげよう緑の崖線 ——」である。今回のこのフォーラムは緑と景観の保全に力点があったが、参加自治体の崖線沿いの小金井市、三鷹市、調布市等への広がりとともに国分寺崖線のもう一つの特徴である湧水への関心が広がることが期待できそうだ。

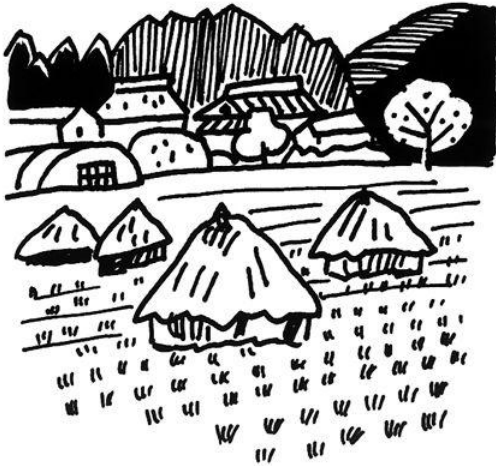
50年後、呑川の水あるいは水循環がどうなっているか、わからない。おそらく現状と大差ないだろう。それでも現在呑川を流れる1%にも満たない湧水が10%になれば、呑川の溢水による洪水は減り、窒素・りん分の富栄養化が抑えられ、ユスリカもそれだけは少なくなるだろう。そして水神の森の湧水も復活し、東調布公園にもっと大きな池をつくれるかもしれない。

「底なし田んぼ」と呑川 (その1)

— 呑川の支流・久品仏川編 —

(高橋 光夫 記)

私が杉並から大田区に移住する前に、いろいろ調べたことの一つに、「底なし田んぼ」といわれる地域があり、その中で「呑川」に直接関係することについてお話ししましょう。



最初は呑川の支流、久品仏川の「底なし田んぼ」についてです。

東横線を開設したものの、その一帯のあまりにも未開発に、東急電鉄が力を入れたのは、新宿に対抗する渋谷の開発でした。渋谷の魅力を引き出し、娯楽面でも強化するための目玉として「東急文化会館」が出来ました。

この最上階には五島プラネタリウムが作られ、全国的にも有名になりました。

ただ「渋谷」という名称からも判るように、谷底で軟弱な地盤で、この「東急文化会館」を作るに当たって、驚くべき建設残土が発生したのです。

この建設残土の処理を巡っていろいろな問題が生じ、結局はその捨て場として、久品仏浄心寺の裏手一帯の「底なし田んぼ」を埋めることになりました。(このそばに住む建設会社の友人から知らされました)しかしこの「底なし田んぼ」の湧水は、「久品仏川」となって、呑川に合流していたのです。

こうして、呑川の水源の一つがつぶれていったのです。

現在、その場所は一部住宅用地となり、一部は「ねこじゃらし公園」になっています。

その場所はまだ湿地帯の様相を残し、住宅地周辺は木道があり、久品仏緑道となって、現在の呑川まで続いています。

このとき久品仏浄心寺の裏手一帯を「底なし田んぼ」と呼んでいたそうですが、それは「目黒区史」で書かれ、最近になって知ったのですがネット上では下記にその表現が見られます

http://www.city.meguro.tokyo.jp/info/rekishi_chimei/category/rekishi/meguro/10-2.htm

さて東急は現在になって、渋谷の再開発の目玉として、この「東急文化会館」を壊す作業に入っています。僕は中学時代、この「東急文化会館」の五島プラネタリウムに、毎月通いましたから、このニュースはとりわけ感慨深いものでした。

「底なし田んぼ」を埋め、呑川の源流の一つがつぶれる原因となった「東急文化会館」・・・

そして今度は、そこにあった青春の思い出「五島プラネタリウム」が無くなる・・・

このプラネタリウムが閉館になった2001年3月11日・・・その日に「絵本の店」を開店し、その名を「星の子」と名付け、屋上に星見台を作り、天体望遠鏡で子どもたちに都会の星空を見せることにしたのです。(続く・・・)

次回・呑川の会「定例会」は 2/28 (金) 18:30～ 池上文化センターにて

<編集後記>

今年の冬は本当に暖冬で、1月というのに呑川沿いのあちこちで白梅・紅梅が満開になりました。さてこの春の桜はどうなるでしょう。毎年やきもきします。

呑川の会では3/31に「花見ウォーキング」・・・白石さんの案内で野川沿いを歩きます。

桜が満開になると良いのですが・・・(高橋光夫)